

SHOW HEYシネマルーム

★★★★★

ムーンライトマイル

共同配給/ギガガ・ヒューマックス

2003 (平成15) 年6月5日鑑賞

<試写会>

Data

監督: ブラッド・シルバーリング
出演: ジェイク・ギレンホール/ダ
スティン・ホフマン/スーザ
ン・サランドン/ホリー・ハ
ンター/エレン・ボンベオ

👁️👁️ みどころ

結婚式の数日前に婚約者が殺された。残された彼は、花嫁の父親の事業に参加し、母親を慰め、家族になりきろうとした。しかし・・・そこには隠された真実があった。名優たちが見せる久しぶりの人間ドラマ。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

<どんな設定の人間ドラマ?>

主人公ジョー (ジェイク・ギレンホール) の婚約者ダイアナが、結婚式の数日前、コーヒーショップで起こった発砲事件の流れ弾に当たって死亡した。

ジョーはもちろん、父親のベン (ダスティン・ホフマン) も、母親のジョージョー (スーザン・サランドン) も悲しみのどん底だ。ベンの仕事は不動産業。ジョーは結婚後それを手伝う予定になっていた。

今日はダイアナのお葬式。友人たちは次々と慰めの言葉をかけ、そして自宅にも慰めの電話や訪問客が。ベンはこれに気をつけて対応するものの、ジョージョーは空虚な慰めの言葉にウンザリ。客が帰ると「悪口タイム」をセットして、ストレスを発散させていた。

ベンはさすがに男。いつまでもメソメソしては・・・と自らにハッパをかけ、仕事に戻ろうとした。そして会社の看板を「フロス and サンズ (息子)」と書き換え、ジョーをパートナーとして再出発しようとした。ジョーはこんな2人の気持ちを十分に理解し、精一杯その中の「自分の役割」を果たそうと努力していた。

他方、ダイアナの殺人事件を担当する州検事補モナ (ホリー・ハンター) は裁判を有利に進めるため苦勞し、ベンとジョージョーたちの協力を要請していた。

<隠された真実>

ダイアナの生存中、必ずしも父娘の関係はうまくいっていなかった。そして父親のベンには気になることがあった。それは、娘が殺された日、その時間に、そのコーヒーショップで娘と会う約束になっていたことだ。ダイアナは父親に一体何を言いたかったのだろうか・・・。

ベンはジョーを仕事のパートナーとして成長させようとし、また妻や娘とは話せなかった男同士としての新たな関係を築こうと努力した。そのベンの気持が分かるジョーもこれに応えようと懸命に努力した。しかしその努力をすればすれほど、ジョーは自分を偽っていることに疲れ、自分を見失っていった。

実は、ジョーはダイアナの死亡直前にダイアナとの婚約を解消していたのだ。そしてダイアナが殺された日、彼女はそのことを打ち明けるため、コーヒーショップで父親と待ち合わせをしていたのだった。

<ジョーの新しい恋>

そんな中、ジョーには新しい恋が・・・。

その「お相手」は、昼間は郵便局に勤め、夜は「キャルの店」という酒場で働く女性パーティー（エレン・ポンペオ）。出会いは、まだ郵便局に留めてあるはずの結婚式の招待状を回収すべく、ジョーが郵便局に赴いた時だ。75通の招待状の回収に協力するパーティー。そして雨の中、ずぶ濡れになって残った1通を自宅まで届けにきたパーティー。こんなパーティーに対してジョーは、後ろめたい気持ちを持ちながら惹かれていった。もっともパーティーも、恋人キャルがベトナム戦争で3年間生死不明のままという過去を引きずっていたが・・・。

<ジョーとパーティーとの恋の行方は？>

ベンもジョーも、いつまでもダイアナの思いを引きずってはいはダメなことは分かっており、それぞれ立ち直りを求め、もがいていた。

ジョーも同様だが、ジョーはもっと深刻だ。すなわち、ダイアナの両親に、ダイアナの死亡直前に、婚約を解消していたことを話すべきか、それとも今後も両親の「期待」に応じて家族として振る舞っていくべきかを悩み、もがいていた。悩み多きことはパーティーも同様だ。

そんなジョーとパーティーとの運命的な出会いと恋の行方は・・・。

アメリカ映画では、男女の「結びつき」は極めてスピーディー。2、3回会ってお互い惹かれ合ったことを確認すれば、ベッドイン・・・。

もっとも、そうすんなりと、この恋が成就したわけではないが・・・。

<裁判の行方は>

ダイアナの殺人事件は、この映画ではサブのストーリーだが、アカデミー賞女優ホリー・ハンターのベン、ジョージョーやジョーに対する質問や、その訴訟の展開の中で、各人の気持ちの動きが手に取るように見えてくる。モナ検事補の最後の手段は、ジョーを証言台に立たせ、失った最愛の花嫁（となるべき女性）がいかに大切であったか、そしてそれを失った自分がいかに悲惨な境遇に陥っているかを証言させることだった。

ジョーは、法廷において検事補の質問に対して懸命に答えようと努力した。しかし……。無理なことは無理。ジョーは証言台の上で、一気に自分の本当の気持ちをまくしたててしまったのだ。そしてその結果は……。

<アカデミー俳優の揃いぶみ>

ダイアナの父親ベンを演じるダスティン・ホフマンは、『卒業』（67年）でアカデミー賞にノミネートされた。その後も、『真夜中のカーボーイ』（69年）、『レニー・ブルース』（74年）等、多くの作品でアカデミー賞にノミネートされ、『クレイマー、クレイマー』（79年）、『レインマン』（88年）では見事、アカデミー主演男優賞を獲得した名優中の名優だ。

母親のジョージョーを演じるスーザン・サランドンも、『テルマ&ルイズ』（91年）、『依頼人』（94年）等でアカデミー賞にノミネートされ、『デッドマン・ウォーキング』（95年）でアカデミー主演女優賞を獲得した名優だ。

さらに、州検事補モナを演じるホリー・ハンターも、『ブロードキャスト・ニュース』（87年）、『ザ・ファーム―法律事務所―』（93年）でアカデミー助演女優賞にノミネートされ、『ピアノ・レッスン』（93年）でアカデミー主演女優賞を獲得した美人女優だ。

こんなアカデミー賞俳優の揃いぶみは見事。そして名優たちに囲まれて（引きずられて）フレッシュな演技を見せるのが主人公のジェイク・ギレンホールとエレン・ポンペオの2人。

<総評>

まず、物語のテーマ設定がしっかりしている。「結婚式直前の花嫁の死亡」というテーマは、ブラッド・シルバーリング監督自身の実体験とのことだ。

ジョーの行動には、見ていてイライラすることも大いにあるが、悲しみにくれた若者としては仕方ないか……と思える演技をしている。そして「キレイな女優」に目がない私の収穫は、パーティーを演じたエレン・ポンペオ。彼女はこの映画でメジャーデビューを果たし、『キャッチ・ミー・イフ・ユー・キャン』（02年）にも出演した有望株で、イキイキした演技が実にいい。一目惚れしそう……。

もともと、「3年間男に指一本触れさせなかった」バーディーが、数回の出会いでジョー

とベッドを共にするのは、いいことなのか、悪いことなのか・・・？そういうことにこだわってしまう私は、やはり単なるスケベおやじか・・・？

最近数少ない、人間の気持ちをきちんと描いた作品で、大いに好感が持てる。

2003（平成15）年6月6日記